

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100431		
法人名	特別医療法人 再生会		
事業所名	認知症対応型共同生活事業ぬくもり		
所在地	熊本県宇土市松山町1907		
自己評価作成日	H23年11月10日	評価結果市町村報告日	平成23年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F
訪問調査日	平成23年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者メンバーがあまり変わらないことで支えあい更に深まってきていると思われる、利用者同士の会話も活発であり、大きな歌声が響いていてホーム全体が明るく穏やかな中にも活気があります、併設の小規模があることで多彩な交流が出来る、又小規模とグループホームを別々に利用されているご夫婦を自宅での二人の時間を持てるような支援も行いながら在宅で一人暮らしのご主人を両方の施設でフォローも可能となっている。昨年は初めての看取りを行った、最期はスタッフ、入居者全員で居室でお別れをし感慨深いものがあった、課題はあるがこの経験がスタッフを成長させ次へ生かされると思う

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県の認知症疾患医療センター指定病院を本体とし、職員の異動もほとんどなく、入居者との信頼関係も更に深まり、個人を大切にしたい穏やかで居心地の良い生活が送られている。入居者ひとり一人の潜在能力の把握やその人らしい生活を送るため場面の提供などが全職員によりさりげなく行われており、入居者同士の支え合いや会話、笑顔が始終見られる。研修体制や委員会体制も整備され、職員のスキルアップやモチベーションを保つことできている、意識も高い。看取りの経験もチームワークの良さにも繋がっている。また、隣接の事業所も含めて、緊急時等の協力体制も構築されている。運営推進会議の開催は地域へのグループホームや認知症の啓発が浸透してきており、今後も高齢者介護の拠点としての活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの際理念を唱和している。唱和することで理念への認識が深まっている。日々の行っているケアが理念に沿ったものであるか振り返りながら困ったときは職員で話し合い理念に基づいたケアを実践していくようにしている	理念は玄関や廊下の壁など目に付く箇所に掲示し、職員は毎朝確認し、常に念頭に置き、振り返りをしながら業務にあたっている。ミーティングや業務中に話し合うこともある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や畑仕事の際地域の方からの声かけや野菜の差し入れなどがある、又近所の神社のお祭りや敬老会への招待もあり参加している。ボランティアで地域の方が健康体操や踊りでこられることもある。ホームの前のグラウンドで学童保育の児童や保育園児との交流がある、子供110番の場所になっている	日常的に近隣へ散歩や買い物に出かけ、挨拶や声かけをするようにしている。地域行事や敬老会のお誘いもあり参加し、出来るだけ参加している。ボランティアや実習も受け入れており、その後も継続して訪問される人もいる。併設事業所(小規模多機能事業所)に出かけ交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験、専門学校の実習の場になっている、実習が終了した後もホームの行事や休日にきて認知症の方や職員と接することで大きく成長される学生さんがおられ学校からも喜ばれた、母体の文化祭においては認知症コーナーを設け啓発活動も行った		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の状況報告にとどまらず問題点の報告も行っている施設側の取り組む姿勢や地域の方のホームへの理解を深めていただくように努めている。又困っているときは一緒に考えていただいている。消防署、警察の方の参加もある	会議のメンバーは行政、包括支援センターの職員、入居者家族代表、区長、老人会長、ホーム職員などで構成されている。ホームの現状や行事報告などを行っている。避難訓練の反省や外部評価・情報の公表などの説明をし、認知症の理解、啓発を含め様々な双方向のアドバイスの場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に不明なことなどは相談したり色々な情報もいただいている。県の実践者研修がなかなか参加できなかったがアドバイスにより同じような研修に参加することができた	運営推進会議へ参加してもらったり、相談事項がある度に、訪問したり電話で情報交換や相談をしており、協力関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことは、経営者の考えでもあり、勉強会を行い、職員全員が、身体拘束を行うことによる、悪影響を理解している。行動障害のある場合も工夫しながら拘束をしないケアを実践している	法人全体として身体拘束は行わない方針を掲げており、全職員は勉強会や研修参加により、身体拘束の弊害を理解し、身体はもちろん、言葉による拘束もしないようにしている。車椅子の方には必ず意志を確認し、拘束のないケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、暴行だけが虐待ではなく、心理的言葉での虐待があることを理解している。職員全員が心にゆとりを持ってよう、勤務表作成時などに、気分転換が出来るように工夫している。		

グループホーム めくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、学ぶ機会を持っている。新人の職員も入り、全職員が権利擁護を理解できるよう、母体の専門職と連携を勤めていきたい。入居者1名の方が利用していてその際家族から相談もあり支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に必ず重要事項説明書その他の書類を基に説明を行っている。また質問や不明な点、介護に対する要望なども聞き納得していただくまで対応している、		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートや家族会(年2回)を開催し意見や要望を聞く機会を設けている今後も内容を充実させ運営に反映できるようにしていきたい、	定期的に家族にアンケートを実施する他、家族会も開催し、家族の意見を聞いたり、家族同士の交流の機会としても機能している。年4回ホーム便りの発行し、キーパーソン以外の家族にも送り、毎月領収書送付際に担当者による入居者のホームでの様子や健康状態について報告し、家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングのとき懇話会を開催しているがそれ以外でも意見が出せるように懇話会ノートをつくり記入している。そのでた意見を運営会議にて話し合い運営に反映している、	日頃より管理者と職員は信頼関係が構築されており、意見や悩みなどを気軽に話し合っている。月1回の会議やノートも利用している。職員や家族から出された意見や提案は早急に話し合い、解決に向けて努めるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、日常の業務を評価し給与につなげている。フィードバック面接により職員の意欲が高められ思いや考えを知ることになる又管理者の思いや考えも伝えられる機会になり、働きやすい環境・条件になるように取り組んでいきたい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が研修を受ける機会が得られるように取り組んでいる、資格取得のため取り組んでいる職員もいる、受けたい研修があるときは勤務調整を行い参加できるように配慮もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年地区の連絡会で職員同士の交流会があるが多くの参加にはつながっていないが定期的な勉強会での交流はある、同業者の訪問があるときはホーム内を案内し意見を聞いたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話する中で、本人様の気持ち、要望等を把握している。会話の際には本人様の話しやすい雰囲気を作り、安心感を持って話していただけるよう心がけている。他入居者との接点を見つけ、そこを活用した、入居者同士の関係作りに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用時には、家族の思いや要望を聞き、思いを受け止めるよう心がけている。また、事業所としてはどのような対応ができるのか、一緒に考え話をするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族が、必要としているサービスは何かを把握し、家族や担当者と十分話し合いをするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で植物、農作物の育て方を教えていただいたり、家事全般を一緒に行き、支え合っている。生活を共にするもの同士として喜怒哀楽を分かち合うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手紙や写真を送り、事業所での生活の様子を伝えている。遠方へおられる家族へも定期的に手紙や写真を送り、状況報告を行っている。また、妄想のあらわれる時等、家族へ状況を説明、協力を依頼することもある。病院受診においても協力をいただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へ戻られた際には、近所や行きつけの商店、お寺へ立ち寄っている。また、入所前より利用されていた美容室を継続し利用できるよう支援している。	帰宅を望まれた時は、頻繁に自宅へお連れしている。また、家族と協力して馴染みの場所や人との関わりが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の支援すぐに会話の仲介に入るのではなく利用者同士が自然にする会話を大切にしています。個別に話を聞いたり、相談に乗ることはもちろん、利用者の動きと、それぞれの役割に配慮しながら、言葉かけや場の設定を心がけています。また、心身の状態や感情の変化も注意深く見守るようにしています。		

グループホーム ぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取組み病院へ入院された方は、職員が面会に行っています。介護度が低下し、ホームを対処された方に対しても、様子を伺いに行ったり、ご家族様より相談を受ける際は、そのつど相談に応じた支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で一人ひとりに声をかけたり、時には家族から聞いたりして把握に努めている。上手に表現できない方や、言葉で伝えられない方もおられるので、何気ない会話や表現を見ながら、また、生活暦も活用しながらアセスメントを行っている。	日々利用者との会話や関わりの中で、同じ目線で傍らに寄り添い傾聴し、想いや希望を把握するようにしている。困難な方は家族からの情報やしぐさや反応をみてできるだけ理解するようにしている。職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活のリズムや過ごし方を大切にしながら、本人の思いや、心身の状態により、できること、できないことを判断している。不十分な部分もあるため、面会時などに家族から聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活スタイルを大切にしている。一人ひとり生活のリズムが違うため、毎日の生活の中や行動、動作などから本人の全体像の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に、毎日のかかわりの中から思いや意向を聞き、できる限り、反映させている。職員間での意見交換、モニタリング、アセスメントを行い、総合的に判断して作成している。	担当者による月1回のモニタリングを行い、計画作成担当者と一緒に再確認し合い、介護計画の変更が必要な場合、及び半年毎に作成している。その際には他の職員の意見や家族の希望も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、食事量や排便の有無、バイタルなどの身体状況の記録。ケアプランに沿ったケアの実践を記録し、職員の気づきや、本人の変化などを記録している。記録を基にしてプランの見直しを行っている。職員間での情報共有も徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能を併設しており、入浴を拒否されるかたがたが、小規模では、スムーズに入浴されたり、すぐに外に行きたがる方も小規模では、ゆっくりと過ごされたりと、小規模の職員や利用者の方と交流し馴染みの関係もできている。		

グループホーム めくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防署や、警察の方に運営促進会議に参加していただいている。また、包括、市、民生員、区長、老人会等の参加もあり、行事などで地域に出たときには参加していただくこともある、月に一回は保育園児との交流を楽しまれたり、ボランティアの訪問もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を聞きながら、希望の病院を受診していただいている。突発的な往診もある。必要に応じて受診の付き添い、ご家族とも同行しており、普段の様子や変化を伝えるようにしている。ご家族の付き添いが困難な場合は職員が付き添い、受診後適宜報告を電話で行い記録に残している。	家族や本人の希望のかかりつけ医の医療が受けられるように支援している。基本的に家族による通院としているが、要望や緊急の際にはホーム職員による通院介助を実施している。病院で合流する場合もある。受診の際には情報提供や受診結果の共有は行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置を行っており、不在の際は、オンコール体制をとっている。母体の看護師との連携も取れており、夜間帯は看護師が到着するまで、対応を依頼することもある。併設の多機能の看護師との連携も取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行うとともに、何か不明な点があったら、いつでも連絡していただくようにしている。面会時には、情報交換に勤めている。家族とも回復状況等、情報交換をしながら、事業所内での対応が可能な段階でなるべく早く退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針を伝え、実際看取りの場面となった時、再度、事業所の指針を具体的に伝えている。同時にスタッフの気持ちを大事にしながら、終末期の介護について具体的な、観察事項を明確にし、不安の軽減を行ったりしている。地域の担当医や母体病院との連携にも努めている。	入居の時点で家族・本人にはホームの重度化、終末期に関する指針を説明し、ホームにできる事・できないことを説明し了承を得ている。その時には再確認し、家族の意見を尊重している。かかりつけ医、看護師、ホーム職員と連携しながら支援している。今年度看取りを経験し、職員、ホームにとって新たな気づきや問題点がわかりよい経験となった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が年に一回は、数名の応急手当普及委員が中心になり、AEDを使いながら、応急手当や初期対応の訓練を行っている。同時に緊急時の連絡体制、夜間時の緊急対応についても勉強している。毎月いろいろな場面を想定した救急訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、避難訓練には、消防署の方に参加してもらいアドバイスをいただいている。母体の避難訓練にも参加し、消火訓練・通報訓練等も行っている。近隣地域にいる母体の職員やホームのスタッフが火災発生時に自動連絡網で駆けつける体制にもなっている	防災マニュアルの他に新たに地震マニュアルを作成した。年2回消防署の指導の下入居者参加で夜間想定避難訓練を実施している。小規模多機能事業所と併設しており、協力して訓練を行っている。通報訓練なども行っている。毎月緊急時の対応の研修を開催し、災害・緊急時への意識が高い。	職員の災害対策の際の動きの再確認のために、昼間想定避難誘導訓練の実施が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は「逆の立場だったら」ということを考えケアに当たっている。一人ひとりの思いを考え、排泄の声かけ等は、ほかの方に気づかれぬよう、さりげない声かけに努めている、トイレ又は入浴時はプライバシーに配慮しながら危険のない様に個々に合わせた見守りを行っている	常に入居者本位で考え、行動するように言葉かけや対応に努めている。排泄や入浴の際には安全性を保ちながら、見守りやケアにあたっている。記録作成時にもプライバシーに配慮し、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた声かけを行い、同じ目線に立ち、落ち着いて自己決定・思いを出してもらえよう、心がけている。また、職員は行動や言動から思いを汲み取ることの大切さを理解しケアに当たっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズム・希望を大切に生活していただいている。入浴時間の希望を聞き、入りたいときに入ってもらおうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めている。希望の日にかットや髪染めができるよう、なじみの美容院と連携をとっている。また、外出時には化粧を行い気分を変えて楽しんでいただけるよう心がけている、中にはマニキュアを楽しまれる方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に言ったり、メニューを決めていただいたりしている。食事の準備や片付けも利用者の力に応じてできることを手伝っていただいている。畑で収穫した野菜を料理に使用することで、苦手の食材も召し上がれることもある。	毎日入居者と供に買い物に出かけ、入居者の好みや季節感を考慮した献立を一緒に作成している。出来る入居者と供に食事の準備や後片付けを供に行っている。菜園での野菜が食卓に上ることも多く、入居者が食事の時間を楽しみにされておられ、会話や仕草の中にも食事の時間の大切さを垣間見ることが出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人の体調を考慮しながら一日の摂取量を把握している。摂取量の少ない方には嗜好品や食べやすいものを提供したり、他利用者にさりげなく勧めていただいたり工夫をしている。水分だけでは摂取量の少ない方も、イオンサポートゼリーを使用することで全体的に水分摂取量が増えてきている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、自発的にされる方、声かけのみの方、介助が必要な方と様々です。個別の対応で、自分で出来る所はしていただき、出来ない所のみ介助し、出来るよう援助をしています。義歯はさすが、拒否のある場合は無理強いせず、時間を置いたり、スタッフを交代したりと、工夫しながら対応しています。食後の誘導で、少しずつ義歯洗浄が習慣づいてきた方もおられます。		

グループホーム めくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えない利用者で長くオムツ使用であったが、排泄パターンを把握し誘導によりトイレで排泄できるようになり日中布パンツで過ごせるように支援を行った、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している	排泄パターンを把握しており、時間やそぶりを見逃さず、さりげなく声掛けや誘導を行っており、できるだけトイレで排泄するように支援している。おむつや紙パンツなど入居者に応じて検討し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給と繊維質の多い食物を提供している。運動が出来る方は体を動かすようにし、運動が思うように出来ない方はマッサージや温法を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい時間に入っていたいでいる。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、当番でない人の介助と、タイミングが合えば、朝・午前中・小規模での入浴も可能な限り行っている。体調に合わせて清拭・更衣・足浴をして頂く時もある。	入居者の希望に応じて朝夕、何時も入浴支援を行っている。拒否の方には声掛け時間や職員を変えたり隣接の小規模温泉にお誘いしたり、気持ち良く入浴できるように様々な工夫をしている。清拭や部分浴なども行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日の流れが違うため、疲れ具合も違う。その方にあつた休息の時間も日々変化する為、昼間の休息は体調を見ながら個別に行っている。就寝時間が遅めの方がおられるが、スタッフルームで夜勤者と一緒に過ごしていただき、温かい飲み物等提供し時間を説明しながら、眠られる雰囲気を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や作用についてはすぐに見れるところに処方箋を置いている。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られたときは、いつもより詳細な記録をとるようにし、何か小さな変化でも気づいたときは、報告を行うように伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水かけ、掃除・食事の準備・片付け・洗濯たたみなどそれぞれの入居者の役割がより力を発揮していただいている、常に入居者のがんばりに「ありがとう」の言葉をかけ感謝の気持ちを伝えるようにしている。季節の行事は多くの方が主役となり楽しめるよう配慮している、就寝前の梅酒を楽しみにされている方もおられる、時々近くのファミレスにデザートを食べに行くこともある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により外出される際は、ほかの入居者に気兼ねされないようマンツーマンでの対応を行っている。地域の保育園との交流会や地域の祭り、美容室に出かけたり、季節に応じたドライブなど、外出の機会を多くしている。病院受診の外出や墓参りなどの外出を希望されるときなどは家族の協力をお願いしている	入居者の希望があればいつでも外出できるように努めている。頻繁に自宅に帰られる方もおられ、家族の協力も得られている。毎月、季節の花見やドライブ、買い物など外出は多い。隣接の小規模多機能事業所や近隣の散歩や買い物や地域の行事にもよく出かけている。	

グループホーム ぬくもり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり、金額を伝え、預かりから出すように本人に伝える。入居者の中には小銭を自分で管理されている方もある。預かりのお金を渡し、ホームに来るパンの販売や近くのコンビニ行き自分で選び買物をされるような支援もしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は制限はしておらず、入居者のプライバシーに配慮し、使用時は事務所を閉めている。月に一度の家族への手紙に自分で作成された作品や写真を同封している。絵手紙が遠方の家族からよく来る方は時々返事を出されるように、又母の日や誕生日などで贈り物があったときは本人がお礼の電話が出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内にいても花壇や洗濯物が干してある場所が見え、台所も見える位置にあり、生活者としての活動の場所を提供している。居間には常に季節の花を飾り、畳コーナーには、仏壇を置いていて毎朝お参りをしお茶、ご飯をお供えしている、	共有部分は花や季節感や家庭的な雰囲気を大切にしたりとした装飾が施されている。仏壇のある畳のスペースでは洗濯物を畳んだり、雑誌が置いてあったり入居者のくつろぎの場となっている。いたる所にソファや椅子が置いてあり、一人でくつろげる場所も十分に確保してある。換気や臭気などにも配慮し徹底した清潔管理がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場所でなじみの人と過ごしていただけるようソファもいろいろなタイプで置いてある。一人で居たいときもあると考え距離もおいてある季節にあわせみんなで取り組む、壁画やカレンダー作り希望を、聞き参加いただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さな仏壇や写真、自宅で使用していた椅子や家具など、今までの思い出を大事にしながら過ごせるように配慮している。自分の寝具や衣類など多いと混乱される方もあり、状況を見ながら預かったりそっと戻したりしている。	入居者が落ち着いて生活できるように、以前使用されていた家具や生活用品が持ち込まれている。家族の写真や入居者の作品や職員による手作りの装飾がされ、個性的な居室作りの支援がされている。身体機能や状況により、家具のレイアウトを変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ダウンライトの明るさが気になる方に対してW数を落としたり電球と交換したり、就眠されるまで消しその後点灯するなどの対応をしている又視力低下の方が夜トイレの電気を消される為就寝後に、トイレの電気をつけることで、便器の位置を間違えられことなく排泄されている。部屋がわからなくなる方には目印をつけるなどの工夫をしている		

目標達成計画

作成日：平成 24 年 1 月 8 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	職員の災害対策の動きの再確認のために 昼間想定避難訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自が防災に対する意識を高める 訓練により通報、初期消火、避難誘導などを的確に実施できる 	4月に母体と合同で避難訓練を昼間想定で行い、職員の役割の確認、病院職員との連携を図る。又月1回の防災訓練で、単独での避難訓練・研修の継続、防災についての資料や訓練器材を消防署から借り、訓練を行っていく	ヶ月
2	4				ヶ月
3	54				ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。